

2025年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

第1期募集 入学試験問題

(2枚のうち1枚目)

専攻名	地域創造学専攻	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	人と自然の共生		

次の問題に答えてください。なお、解答は指定の用紙を使用してください。

【基礎】

問題1 当該試験科目の基礎的な用語について聞きます。次の(1)～(8)のなかから、任意に5つを選び、選択した問題番号((1)～(8))を先頭に明記した上で簡潔に説明してください。

- (1)農業振興地域の整備に関する法律(農振法)における「農業振興地域」および「農用地区域」
- (2)圃場整備に伴う換地処分における「特別減歩」および「特別減歩みあいの創設換地」
- (3)農業集落排水施設
- (4)特定地域づくり事業協同組合制度
- (5)マッカーシーの「マーケティング・ミックス」およびそこで指摘されている「4P」
- (6)グリーン購入法
- (7)「内水氾濫」と「外水氾濫」
- (8)わが国における「多自然(型)川づくり」

【応用】

問題2 次の問題Ⅰ～問題Ⅲのなかから、任意に1つを選び、選択した問題番号(「問題Ⅰ」「問題Ⅱ」「問題Ⅲ」のいずれか)を先頭に明記した上で答えてください。

問題Ⅰ 次の(1)および(2)に答えてください。

- (1)山間に位置する農村について、「①悲観的に考えた場合の30年後の姿」「②楽観的に考えた場合の30年後の姿」を簡潔に記述してください(①②の両方)。ここでは、あなた自身の考えを聞いています。参考にしたもの(例:むらづくりの事例や考え方)を含め、そのように考えた理由も記述してください。
- (2)(1)への回答に言及しながら、研究者や行政が「今」何をすべきかについて、あなたの考えを簡潔に記述してください。

2025年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)  
第1期募集 入学試験問題

(2枚のうち2枚目)

専攻名	地域創造学専攻	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	人と自然の共生		

問題Ⅱ 次の(1)および(2)に答えてください。

- (1) minor subsistence とはどのようなものを指すか。また、これが有する・発揮しうる「地域に対する重要性・意義」は何か。これらについて、関係する具体的な地域資源の例を用いながら説明してください。
- (2) (1)を踏まえ、あなた自身の研究対象と minor subsistence とのかかわりを指摘し、人と自然の共生の実現の上で工夫や配慮を要することを論じてください。

問題Ⅲ 次の(1)および(2)に答えてください。

- (1) 高度経済成長期を中心に水資源開発が進行し、ダム建設が各地で行われました。ダム建設によって生じる流域の変化について解説してください。
- (2) ダム建設後の水源地域では様々な振興策が行われていますが、地域振興の取り組みについて、あなたの考えを述べてください。

2025 年度 1 期金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学専攻 選抜区分 一般

科目名 人と自然の共生

解答例又は出題意図

【別紙の添付又はデータによる提出の場合は、その旨を記載願います。】

問題 1

(1)～(3)の出題意図

「人と自然の共生」では、「むらづくり」という視点が非常に重要である。ここでは、『改訂農村計画学』（改訂農村計画学編集委員会，農業農村工学会発行，2003）から、基本的なところを出題した。それぞれの用語の掲載箇所（項）は次のとおり。

(1) 「わが国の国土利用計画の体系」 pp. 66-73

(2) 「換地手法」 pp. 78-86

(3) 「農業集落排水施設」 pp. 135-141

採点についても『改訂農村計画学』の記載（要点）を基準として行う。

(4)の出題意図

「むらづくり」について、比較的新しい制度についても幅広く知っているか、を問うために出題した。総務省の Web サイトなどに記された内容をおさえていれば可とする。

[https://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/jichi\\_gyousei/c-gyousei/tokutei\\_chiiki-dukuri-jigyuu.html](https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/tokutei_chiiki-dukuri-jigyuu.html)

(5)および(6)の出題意図

資源活用、人と自然の共生を考える際に頻出、基礎的な用語・概念、しくみであるため出題した。

(5)および(6)の解答ポイント・評価観点

(5)下記の内容・観点等に言及して解答されているか

（参照例：高谷和夫 2008. 『サステナビリティ時代のマーケティング戦略』白鳳書房）。

例 → 何らかの資源・商品を相手に届けようとする個人・組織等が、標的市場（ターゲット）の状況、考え、ニーズや販売環境などを踏まえ、マーケティングに関わる要素を相互に効果的に選択、接続、組み合わせることで最適な販売・提供のシステム、戦略を見出す試み。マッカーシーは、販売を取り巻く環境を統制可能なものと統制不可能なものに分類し、前者については4P（Product（製品）、Price（価格）、Place（流通経路）、Promotion（販促促進））を挙げ、ターゲット、自らの資源・商品と4Pとのよりよい結びつき、組み合わせを検討することが重要としている。

(6)環境省 HP (<https://www.env.go.jp/policy/hozen/green/g-law/index.html>) で説明されている内容を踏まえ解答されているか。

例 → 循環型社会の形成のために、環境負荷の低減に資する製品・サービス（「環境物品等」）の開発・製造の拡大のような供給面の対策に加えて、それらに対する需要の喚起、確保が重要である。そこで循環型社会形成推進基本法の個別法のひとつとしてこの法律が制定された。この法律では、国等の公的機関が率先して環境物品等の調達を推進するとともに、環境物品等に関する適切な情報提供を促進することにより、需要の転換を図り、持続的発展が可能な社会の構築を目指している。グリーン購入法の基本方針では、目標実現のため、国等の各機関による「環境物品等」の購入利用を義務化し（地方公共団体等は努力義務、事業者及び国民は一般的責務）、計画的に調達を推進することとしており、特に重点的に調達を推進すべき環境物品等として、紙類、文具類、オフィス家具などを「特定調達品目」に定めている。

### (7)および(8)の出題意図

当該分野の常識として当然知っておくべきものとして出題した。

(7)については、国立研究開発法人防災科学研究所の Web サイトや『川の百科事典』（高橋裕ほか、丸善発行、2008）などに記された内容をおさえていけば可とする。

防災科学研究所 HP: [https://dil.bosai.go.jp/workshop/01kouza\\_kiso/11naisui.html](https://dil.bosai.go.jp/workshop/01kouza_kiso/11naisui.html)

例 → 河川・海岸沿いに開け堤防によって洪水や高潮から防護されている土地を堤内地と呼び、堤内地の水を内水と呼ぶ。これに対して堤防よりも河川や湖沼、海洋などの側の土地を堤外地と呼び、堤外地の水を外水という。流域に降った雨が川に流出すれば外水であり、川に出ずに堤内地側にとどまっていれば内水である。それらが氾濫と認識されると、それぞれ「外水氾濫」、「内水氾濫」と呼ばれる。外水氾濫による水害は、河川の堤防決壊、堤防越水などを伴い堤防の防護を上回る外力が発生した場合に生じる。内水と違い流れを伴うことが多く、家屋流出など被害が大きくなりやすい。内水氾濫による水害は都市や新興市街地などで起きやすく、都市型水害ともいわれる。都市部では、土地に浸透や貯留する余裕がないため雨水がはけきれなくなり、水が溜まり、マンホールからの逆流や道路冠水、地下通路への水の流入などが発生する。わが国の都市部では外水氾濫に比

べ、内水氾濫による被害額が大きいがこれは戦後急速に進行した都市化が影響している。外水氾濫が発生した場合の対策としては堤防等の破壊された構造物を復旧し、外水の供給源を断つことが重要である。また内水氾濫が発生した場合の対策としては、排水ポンプ車ないしは施設を稼働させ、最終排水先の河川等に吐き出すことが重要である。

(8)についても、国土交通省の Web サイトなどに記された内容をおさえていけば可とする。

<https://www.mlit.go.jp/river/kankyo/main/kankyotashizen/index.html>

例→ 多自然川づくりとは、河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出するために河川管理を行うことを指す。多自然川づくり誕生の経緯としては、1980年代以降、わが国の環境運動の気運の高まりを受け、ドイツ・スイスで行われていた近自然河川工法をもとにわが国で治水と環境を両立した川づくりを行うことからである。1990年に多自然型川づくりの実施要領の通達後、各地で要領に沿った川づくりが行われ、2006年に「多自然川づくり」と名を改め、基本指針を発表している。多自然川づくりの適用範囲はすべての一級河川、二級河川、準用河川とし、調査・計画・施工・維持管理の河川管理におけるすべての行為が対象とし、すべての川づくりの基本としている。基本指針において具体的に留意すべき事項として、過度の整正又はショートカットを避ける、掘削等による河床材料や縦断形の変化や床止め等の横断工作物の採用は極力避ける、川幅をできるだけ広く確保する、水生生物の自由な移動を確保するための工夫を行う、川との横断方向の連続性が保全、地域の歴史・文化、周辺景観との調和に配慮した配置・設計、瀬と淵、ワンド、河畔林等の現存する良好な環境資源をできるだけ保全するなどをあげている。

## 問題 2

### 問題 I の出題意図

「人と自然の共生」では、過去の出来事だけでなく、「これからについて考える力」の有無が問われる。(1)は、既知の事例や考え方などから、「これから」を描く力をみるためのものである。個々の予想の蓋然性ではなく、予想に至るまでの論の流れ（考え方の整合性）を中心に採点する。(2)では、研究や実践に対する姿勢や論文執筆の基礎力の程度をみるが、「正解」はなく、ここでも論の流れを中心に採点する。

### 問題 II の出題意図

(1)は、地域資源の活用の検討の過程で注目される概念・視点の内容、意義の理解を確認する（下記ポイント）。(2)は、概念・視点と自分の研究課題との関係を見出し位置づけできる課題探求能力、および論理性、論文作成能力の確認を意図し、正解はないが論の流れを中心に採点する。

## 解答ポイント

観点(ア)・(イ)・(ウ)の説明と意義の説明が必須(参照:松井健 1998. マイナー・サブシステムの世界. 篠原徹編『民俗の技術』朝倉書店 247-268)。

(ア)最重要とされている生業活動の陰にありながら、それでもなお脈々と受け継がれてきている生業、(イ)消滅しても大きな経済的影響をおよぼさないが、社会的・文化的な側面での意義・役割が大きく、当事者たちの情熱、思い入れなどを原動力として継承されてきた活動、(ウ)狩猟・採取・漁撈行為など資源との身体的な出会いを求める行為であり、生産から消費までが直接・短い経路でつながっている(行為者と消費者とがほぼ重なる)。

意義への言及例:

地域の環境・資源と人とのかかわりが継続し、それらに対する人々の関心・注目が続くこと。関係者の共有財産であるという認識が生まれることで、地域の環境・資源の持続的利用・保全が促される点。

活動を潤滑に展開・維持できる人と人とのコミュニケーション、きまり、組織と、得られた資源や資源獲得に関わる技能・道具などの共有・伝承などが存在することは、地域の社会活動の高い活性度、密でかつ風通しの良い人間関係、文化の現れでもあり、在来知の蓄積・継承にもなること。

## 問題Ⅲの出題意図

「人と自然の共生」では、点(例:個々の施設)だけでなく、面(例:流域)として自然や社会を捉えることが重要である。(1)は、ダム建設という大規模な土木工事の広域的な影響について順序立てて説明できるか、をみるためのものである。水循環や生態系だけでなく、地域社会や経済への影響についても採点の対象とする。(2)では、地域振興に対する基本的な姿勢や論文執筆の基礎力の程度などをみるが、「正解」はなく、論の流れを中心に採点する。

2025年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

第1期募集 入学試験問題

( 1 枚のうち 1 枚目)

専攻名	地域創造学	選抜区分	一般
試験科目	地域協働		

次の問題に答えてください。なお、解答は指定の用紙を使用してください。

【基礎】

問題1 [1] [2]のうち、1つを選択して解答してください。また、選択した問題の番号を書きながら、解答してください。

[1] 次の用語について説明しなさい。

- (1) スポーツマンシップ
- (2) スポーツ的社会化

[2] 次の用語について説明しなさい。

- (1) 産業空洞化
- (2) 産業集積
- (3) 柔軟な専門化
- (4) 都市システム

【応用】

問題2 [1] [2]のうち、1つを選択して解答してください。また、選択した問題の番号を書きながら、解答してください。

[1] 文部省は 2000 年9月に「スポーツ振興基本計画」を策定し、生涯スポーツ社会の実現を政策目標に掲げました。これに関連する次の質問に答えなさい。

- (1) 生涯スポーツ社会とは、どのような社会ですか。
- (2) 生涯スポーツ社会に暮らす人は、どのようなスポーツ生活を送っていますか。事例を挙げて具体的に説明しなさい。
- (3) 生涯スポーツが社会に果たす機能について、説明しなさい。

[2] 「モータリゼーションがもたらした都市空間の変容」について、中心市街地の活性化の成果と課題の両側面に触れながら、あなた自身の考えを以下のキーワードをすべて用いて論じなさい。

キーワード：職住分離、郊外化、商業空間、商店街、まちづくり三法

2025 年度 1 期金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学専攻 選抜区分 一般

科目名 地域協働

解答例又は出題意図

【別紙の添付又はデータによる提出の場合は、その旨を記載願います。】

【基礎】

問題 1[2]

出題意図：地域産業に関する基礎的知識を問う。

解答例

(1) 産業空洞化

1980 年代半ば以降、日本国内の製造企業が、海外へ生産拠点を移したことで、グローバル生産が進展した。これに伴い、日本国内における製造業雇用が大きく減少し、国内製造業が衰退したこと。

(2) 産業集積

特定の地域内の事業所間で分業体制の確立や取引費用の節約などの相互作用が生じ、外部経済の利点が生まれることで、産業が特定の地域に偏って局地的に集中すること。特定の関連産業に限定して集積する場合や複合産業が集積する場合など、様々である。

(3) 柔軟な専門化

消費者ニーズの多様化を背景として市場の不確実性が増大する中、大企業の大量生産体制に変わり、中小企業がネットワーク的結合で環境変化に適応する体制。ポストフォードイズムの工業地域として議論されてきた。

(4) 都市システム

資本・物資・人口の流動、情報の交換、イノベーションの拡散、経済変動の波及などを通して互いに依存しあう都市の集合体のこと。都市群の分布や都市規模分布のほか、都市間の流動や結合関係が、垂直的・水平的なネットワークとして議論されてきた。

【応用】

問題 2[2]

出題意図：都市空間の変容過程に関する包括的理解を問う。キーワードを用いて、都市空間の変容とその背景を説明できているかどうか、またその様相や実態を客観的に捉えられているかどうか、さらに自身の考えを論述できているかどうかを判別する。

参考

経済地理学会編，2018，『キーワードで読む経済地理学会』原書房。

伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編著，2020，『経済地理学』ミネルヴァ書房。

2025年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)  
第1期募集 入学試験問題

( 1枚のうち 1枚目)

専攻名	地域創造学専攻	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	家庭生活研究		

次の問題に答えてください。なお、解答は指定の用紙を使用してください。

【基礎】

問題1

(1)～(6)の用語のうち、4つを選択し、それぞれの意味について具体例を提示しながら説明してください。また、それぞれの用語は、生活する人の立場からみてどのような課題があるかを述べてください。

(回答する際は、選択した問題の番号を書いてから、回答してください。)

- (1) 子どもの遊びに必要とされる「サンマ」の変容
- (2) 様々なコ食
- (3) 性別役割分業
- (4) 出生前診断
- (5) 家庭の機能の社会化・外部化
- (6) アクティブラーニング

【応用】

問題2

現代社会における子ども環境の課題について1つ取り上げ、家庭生活との関連から何が課題であるのかを説明してください。また上記にあげた課題を踏まえて、今後の子ども環境はどうあるべきか、家庭・地域・社会でそれぞれができることについて、あなたの考えを論じてください。

2025 年度 1 期金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学専攻 選抜区分 一般

科目名 家庭生活研究

解答例又は出題意図

【基礎】

問題 1

(1)～(6)の用語のうち、4つを選択し、それぞれの意味について具体例を提示しながら説明してください。また、それぞれの用語は、生活する人の立場からみてどのような課題があるかを述べてください。

(回答する際は、選択した問題の番号を書いてから、回答してください。)

- (1) 子どもの遊びに必要とされる「サンマ」の変容
- (2) 様々なコ食
- (3) 性別役割分業
- (4) 出生前診断
- (5) 家庭の機能の社会化・外部化
- (6) アクティブラーニング

<出題意図>

問題 1 の出題意図は、家政学における基礎的な用語の理解を確認するために出題したものである。

【応用】

問題 2

現代社会における子ども環境の課題について 1 つ取り上げ、家庭生活との関連から何が課題であるのかを説明してください。また上記にあげた課題を踏まえて、今後の子ども環境はどうあるべきか、家庭・地域・社会でそれぞれができることについて、あなたの考えを論じてください。

<出題意図>

問題 2 の出題意図は、大学院進学後に子ども環境学や家政学に関する専門的課題に対応できるような知識と分析力、論理的思考力を有しているかを確認するものである。

2025年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)  
第1期募集 入学試験問題

( 2枚のうち 1枚目)

専攻名	地域創造学	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	コンサートプランニング研究		

【基礎】

問題1

文部科学省は「平成30年度文部科学白書」において、教科指導におけるICT活用の必要性に言及している<sup>1)</sup>。音楽科においても、電子黒板やデジタル教科書の活用がすすめられており、「表現（歌唱、器楽、音楽づくり／創作）」「鑑賞」の各活動で、さまざまな取り組みが行われるようになった。

- (1) 音楽科におけるICTの活用にはどのようなメリットがあると考えうるか、具体例をあげて論じてください（小学校や中学校など校種は問いません）。
- (2) 音楽科におけるICTの活用にはどのようなデメリットがあると考えうるか、具体例をあげて論じてください（小学校や中学校など校種は問いません）。

【応用】

問題2

地域を持続発展的に創造するためには、何よりも地域に生活する人々の話に耳を傾け、十分な意見交換をしつつ合意を形成し、関係する諸団体・組織等と調整を図りながら協働的に取り組んでいくためのコミュニケーション能力が必要<sup>2)</sup>である。

- (1) 「関係する諸団体・組織等と調整を図りながら協働的に取り組んでいくためのコミュニケーション」は、仮にそれが音楽関係の取組みや企画の実施の場合、どのようなものであると想定されるか、具体的に論じてください。

- (2) C. スモールは著書『ミュージッキング—音楽は〈行為〉である』において、「

」と問いをたてている<sup>3)</sup>。スマールのミュージッキングという観点から、音楽という行為が地域や住民とどのように関係を結ぶことが可能か、論じてください。

引用・参考文献およびサイト

- 1) 文部科学省ウェブサイト, 「平成 30 年度文部科学白書」  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/html/hpab201901/detail/1422160.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab201901/detail/1422160.htm) ,  
(2024 年 6 月 10 日最終閲覧)。
- 2) 金沢大学人間社会研究科地域創造学専攻ウェブサイト, 「理念・目標」 <https://human-socio.w3.kanazawa-u.ac.jp/master/regional/>, (2024 年 6 月 10 日最終閲覧)。
- 3) スモール, C. 2023, 『ミュージッキング—音楽は〈行為〉である』野澤豊一・西島千尋訳, 水声社, pp. 360-361.

2025 年度 1 期金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学 選抜区分 一般

科目名 コンサートプランニング研究

解答例又は出題意図

【別紙の添付又はデータによる提出の場合は、その旨を記載願います。】

【基礎】

問題1

文部科学省は「平成 30 年度文部科学白書」において、教科指導における ICT 活用の必要性に言及している<sup>1)</sup>。音楽科においても、電子黒板やデジタル教科書の活用がすすめられており、「表現（歌唱、器楽、音楽づくり／創作）」「鑑賞」の各活動で、さまざまな取り組みが行われるようになった。

(1) 音楽科における ICT の活用にはどのようなメリットが考えうるか、具体例をあげて論じてください（小学校や中学校など校種は問いません）。

- ・・・ピアノなどの習い事や吹奏楽部などの部活動経験がなく、演奏や楽譜に苦手意識をもつ児童・生徒が、タブレットを使用することにより積極的に「音楽づくり／創作」に参加できるなどの ICT 活用による児童・生徒の積極的な参加や、教師の範奏動画を児童・生徒一人ひとりがタブレットで閲覧できるなどの ICT 活用による指導の効率化などに触れられていけばよいものとする。

(2) 音楽科における ICT の活用にはどのようなデメリットが考えうるか、具体例をあげて論じてください（小学校や中学校など校種は問いません）。

- ・・・タブレットを使用することで児童・生徒は理解したような気がするが、実際には知識や技能が定着していないことが危惧される、など ICT を用いることによる弊害に触れられていけばよいものとする。

【応用】

問題2

地域を持続発展的に創造するためには、何よりも地域に生活する人々の話に耳を傾け、十分な意見交換をしつつ合意を形成し、関係する諸団体・組織等と調整を図りながら協働的に取り組んでいくためのコミュニケーション能力が必要<sup>2)</sup>である。

(1) 「関係する諸団体・組織等と調整を図りながら協働的に取り組んでいくためのコミュニケーション」は、仮にそれが音楽関係の取組みや企画の実施の場合、どのようなものが想定されるか、具体的に論じてください。

- ・・・取組みを実施する側の理想（舞台環境や観客数、曲目など）と、取組みの受け入れ側のニーズが必ずしも合致しない場合、受け入れ側のニーズに耳を傾け、柔軟に調整する必要があることなどに触れられていけばよいものとする。

(2) C. スモールは著書『ミュージッキングー音楽は〈行為〉である』において、「音楽パフォーマンスへの参加者と、それを囲む物理的な配置／環境との関係はどのようなものだろうか？」と問いをたてている<sup>3)</sup>。スマールのミュージッキングという観点から、音楽という行為が地域や住民とどのように関係をつむことが可能か、論じてください。

・・・たとえばコンサートホールにおけるコンサートと小学校におけるアウトリーチ活動では「物理的な配置／環境」が異なること、そのうえで地域や住民とつむことのできる関係がどのようなものかに触れられていればよいものとする。

#### 引用・参考文献およびサイト

- 1) 文部科学省ウェブサイト, 「平成30年度文部科学白書」  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/html/hpab201901/detail/1422160.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab201901/detail/1422160.htm), (2024年6月10日最終閲覧)。
- 2) 金沢大学人間社会研究科地域創造学専攻ウェブサイト, 「理念・目標」 <https://human-socio.w3.kanazawa-u.ac.jp/master/regional/>, (2024年6月10日最終閲覧)。
- 3) スモール, C. 2023, 『ミュージッキングー音楽は〈行為〉である』水声社, pp. 360-361

2024年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)  
10月入学 入学試験問題

(2枚のうち 1枚目)

専攻名	地域創造学	選抜区分	外国人
試験科目	地域協働		

次の問題に答えなさい。なお、解答は指定の用紙を使用しなさい。

【基礎】

以下の問題1または問題2のいずれかひとつを選択して解答しなさい。

問題1 以下の6個の用語から4個を選択し、その意味を説明しなさい。

解答の順番は問わないが、どの語を選択したのかが分かるように記述すること。

- (1) 政策の窓モデル(マルチストリーム・モデルとも)
- (2) インクレメンタリズム(漸進主義、増分主義とも)
- (3) 第一線職員(第一線公務員、ストリートレベルの官僚とも)
- (4) 町内会(自治会、区会とも)
- (5) 一部事務組合
- (6) 機関委任事務

問題2 以下の6個の用語から4個を選択し、その意味を説明しなさい。

解答の順番は問わないが、どの語を選択したのかが分かるように記述すること。

- (1) KJ法
- (2) 建築協定
- (3) 景観地区
- (4) 近隣住区論
- (5) コレクティブ・ハウス
- (6) パタン・ランゲージ

(2枚のうち 2枚目)

【応用】

以下の問題 1 または問題 2 のいずれかひとつを選択して解答しなさい。

問題 1 「官民連携(Public Private Partnership; 公民協働等の呼称もあり)」と称される取り組みについて、①用語の意味と歴史的背景を説明しなさい。②日本もしくは他国での実例を挙げ、いかなる具体的取り組みがなされているか述べなさい。③上述の例や自身の研究に即し、官民協働の意義および現状の課題について論じなさい。

問題 2 歴史的環境の保全と継承に関連した日本または世界での取り組みについて、その歴史的経緯と意義、現状の課題と限界について実例を挙げて説明しなさい。また、諸課題に対して有効と考えられる取り組みについて、過去の実例や研究を踏まえたうえで自身の考えを述べなさい。

2024 年度 10 月入学金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学 選抜区分 外国人

科目名 地域協働

解答例又は出題意図

地域協働科目では、受験者により入学に求められる専門性が異なるため、基礎・応用それぞれに 2 つの問いを設定し、受験者の希望する専門領域に適した設問を選択する形式とした。本書は「問題 1」に対するものである。

**【基礎】**

地域政策領域にて大学院の研究を進めるにあたり、公共政策と地方自治分野での一定の知識水準が求められる。そのため、出願者が両分野に関する基礎的な知識を有するか否かを評価することを意図し、参考図書から関連用語を抽出したうえで、そこから選択した内容に関して説明を求めた。

- ① 政策の窓モデル（秋吉貴雄ほか『公共政策学の基礎 第3版』有斐閣, pp. 61-62）
- ② インクレメンタリズム（同上, pp. 152-153）
- ③ 第一線職員（同上, pp. 213-217）
- ④ 町内会（磯崎初仁ほか『ホーンブック地方自治 新版』北樹出版, pp. 252-254）
- ⑤ 一部事務組合（同上, pp. 45-46）
- ⑥ 機関委任事務（同上, pp. 26, 29, 34-37）

**【応用】**

地域政策を主題とした研究を進めるにあたり、政府と民間組織による政策作成・実施について知識を持ち、それにもとづき具体的事例について記述し論じられる関心と能力を有しているかを評価することを意図している。回答にあたっては、官民連携の概念および歴史的背景の知識を示し、出願者の任意の事例について説明したうえで、その意義および課題の双方に言及し論じることを求めた。

2024 年度 10 月入学金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学 選抜区分 外国人

科目名 地域協働

解答例又は出題意図

地域協働科目では、受験者により入学に求められる専門性が異なるため、基礎・応用それぞれに 2 つの問いを設定し、受験者の希望する専門領域に適した設問を選択する形式とした。本書類は「問題 2」に関するものである。

**【基礎】**

建築・都市計画領域で取り扱われる内容は、空間デザイン手法、計画思想、調査計画技術、制度、歴史など多岐にわたる。出願者がこれらの広範な分野に関する基礎的な知識を有するか否かを評価することを意図し、参考図書から満遍なく関連用語を抽出したうえで、そこから選択した内容に関して説明を求めた。

- ① KJ 法（脇田祥尚：みんなの都市計画，理工図書，pp. 57）
- ② 建築協定（同上，pp. 69, 147）
- ③ 景観地区（同上，pp. 69）
- ④ 近隣住区論（同上，pp. 187）
- ⑤ コレクティブ・ハウス（同上，pp. 109）
- ⑥ パタン・ランゲージ（同上，pp. 187）

**【応用】**

地域創造学専攻で重視される「地域特性への配慮」の重要性を建築・都市計画の潮流を踏まえた視点から論じる知識と理解力を有しているか、また具体的な地域の事例に関する関心と知識を有しているかを評価することを意図し、歴史的環境の保全と継承に関する歴史的背景とその意義、現状および諸課題について具体的な事例を通じて説明すること、また過去の取り組みを踏まえたうえで自身の見解を説明することを求めた。

2024年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

10月入学 入学試験問題

( 1 枚のうち 1 枚目)

専攻名	地域創造学	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	スポーツ指導研究		

次の3つの問題に答えてください。なお、解答は指定の用紙を使用してください。

【基礎】

問題1: 体育・スポーツを通して得られるソーシャルスキルの「内容」と「ソーシャルスキルを習得するプロセスおよび注意点」について、それぞれ詳細に説明してください。

問題2: 運動技能の「保持効果」と「転移効果」について、用語の意味を説明するとともに、それぞれの効果を高める練習方法について、具体例を挙げながら詳細に説明してください。

【応用】

問題3: 体育授業において児童・生徒が抱きやすいストレスと対処行動の特徴を挙げ、具体的に説明してください。そのうえで、ストレスを緩和するために、教師はどのような教師行動や指導上の工夫をする必要があるか、また、なぜそのような工夫が必要になるのか、具体例を挙げながら詳細に論じてください。

2024 年度 10 月入学金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学 選抜区分 一般

科目名 スポーツ指導研究

解答例又は出題意図

【基礎問題】

問題 1：体育・スポーツを通して得られるソーシャルスキルの「内容」と「ソーシャルスキルを習得するプロセスおよび注意点」について、それぞれ詳細に説明してください。

問題 2：運動技能の「保持効果」と「転移効果」について、用語の意味を説明するとともに、それぞれの効果を高める練習方法について、具体例を挙げながら詳細に説明してください。

\*出題意図

- ・スポーツ指導に求められる、運動心理学分野の基礎的な知識を身につけているか確認する。

【応用（専門）問題】

問題 3：体育授業において児童・生徒が抱きやすいストレスと対処行動の特徴を挙げ、具体的に説明してください。そのうえで、ストレスを緩和するために、教師はどのような教師行動や指導上の工夫をする必要があるか、また、なぜそのような工夫が必要になるのか、具体例を挙げながら詳細に論じてください。

\*出題意図

- ・体育授業では、児童・生徒が抱きやすいストレスを理解した指導が求められる。ここでは、運動心理学における教師行動、運動有能感、ならびにストレス関連の知見をベースに、教師がいかに児童・生徒のストレスを理解し、それを踏まえた指導を行うべきか、その具体的方法と理由について論述する能力、思考・判断力について確認する。
- ・大学院進学後に運動心理学に関する専門的課題に取り組むうえで求められる知識や論理的思考力を有しているか確認する。